

# YAMAHA

## AUTO/MANUAL CHROMATIC TUNER

# YT-3000

OWNER'S MANUAL  
MODE D'EMPLOI  
BEDIENUNGSANLEITUNG  
取扱説明書



このたびはヤマハ・オート/マニュアル クロマチックチューナーYT-3000をお買い求めいただき、ありがとうございます。

お使いになる前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

### ■ご使用になる前に

#### ◆使用する場所

次のような場所でご使用になりますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・温度や湿度が非常に高い場所や低い場所
- ・砂やホコリの多い場所

#### ◆電源について

・YT-3000は、6F22(006P)乾電池または別売のYAMAHA ACアダプター AC-05、AC-320で動作します。他のACアダプターを使用された場合、故障の原因となることがあります。

必ず極性の正しいもの(— ⊕ +)をお使いください。ご使用にならない時は必ずパワースイッチをOFFにしてください。

また、電池の液漏れを防ぐため、長時間ご使用にならない時は電池を取り出しておいてください。

#### ◆取り扱いのやさしく

スイッチなどに無理な力を加えたり、本体を落としますと故障の原因となりますのでご注意ください。

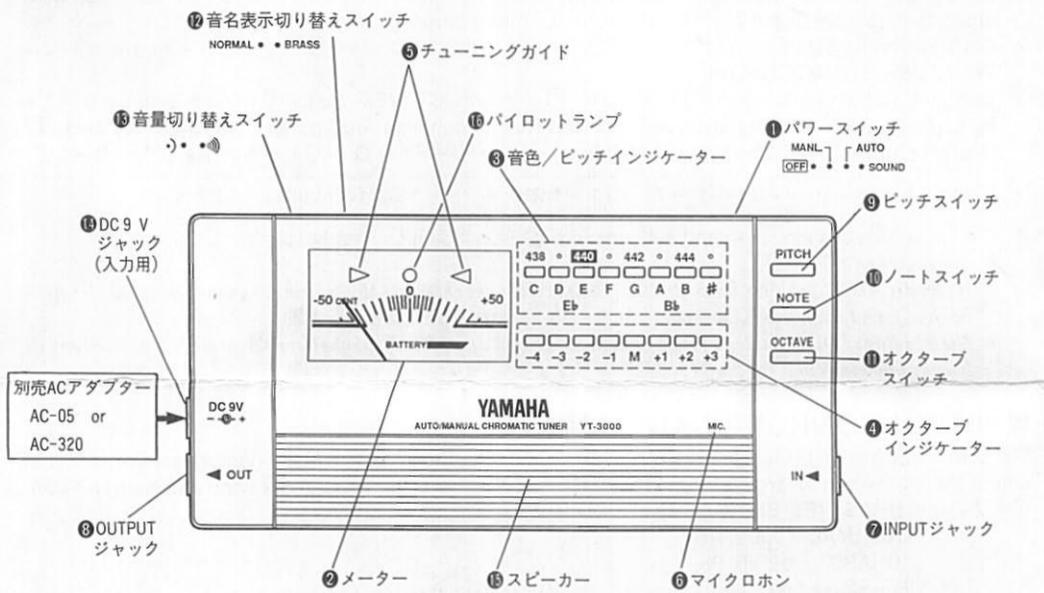
#### ◆お手入れ

外装のお手入れの際は、必ず柔らかい布で乾拭きしてください。ベンジンやシンナー系の液体、強酸性のポリッシャーなどは絶対に使用にならないでください。

#### ◆保証書の手続き

製品をお買い上げいただいた日より1年間は保証期間となり、修理料金は無償とさせていただきます。ただし、保証書に販売店印、購入年月日の記入がありませんと、保証期間中でもサービスが有償となることがあります。必ずお求めになった販売店で保証書に所定の手続きを行なった後、大切に保管してください。

### ■各部の名称



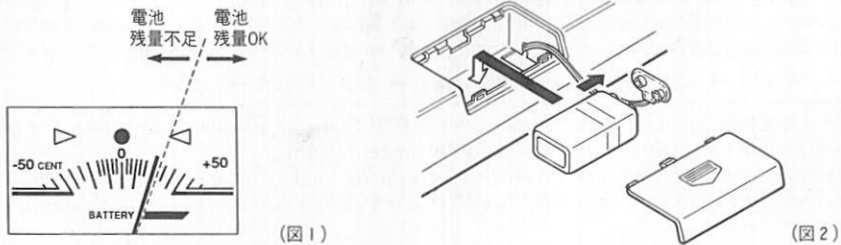
### ■電池交換

#### ●バッテリーチェック

パワースイッチ①を“OFF”から“MANL.”、“AUTO”または“SOUND”にした時、約2秒間メーターにより電池の残量を表示します。この時、メーターの指針が図1のようにBATTERYのバーより左側にある場合は電池が消耗していますので、ただちに新しい電池と交換するか、当社指定のACアダプター (AC-05、AC-320)をDC9Vジャック⑭に接続してご使用ください。また、ご使用中にチューニングガイド⑨の両方(▷、◁)が点滅を始めた場合は、電池が消耗していますので、新しい電池と交換するか、当社指定のACアダプター(上記)をご使用ください。

#### ●電池交換のしかた

図2のようにして電池を交換します。電池の⊕、⊖を間違えないようにしてください。※電池を交換する時、またはACアダプターを接続する時には、必ずパワースイッチ①を“OFF”にしてから行ってください。



### 保証書

持込修理

この度はヤマハ・オート/マニュアル クロマチックチューナーをお買い上げいただきありがとうございます。本書は、本書記載内容で無料修理を行なう事をお約束するものです。お買上げの日から下記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。(詳細は裏面をご覧ください)

品名	ヤマハ・オート/マニュアル クロマチックチューナー	品番	YT-3000	※製造番号	
保証期間	本体：お買上げの日から1年間	※お買上げ日	年	月	日
お客様	ご住所	〒			
	お名前	様			
	電話	( )			
		※販売店	店名		印
			住所		
			電話	( )	

ご販売店へ ※印欄は必ずご記入してお渡しく下さい。

修理(サービス)メモ

年月日	内容	担当者	印

ヤマハ株式会社 LM営業部  
ギター・ドラム営業課  
〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル8F 03-5568-2934

### ■チューニングの方法

#### ●オートチューニング：(AUTO)

- 音を入力すると、その音に一番近い音名、オクターブと、その音より高いか低いかを自動的に表示します。
1. 電気・電子楽器の場合はINPUTジャック⑦に楽器からのコードを接続します。(この時OUTPUTジャック⑧とアンプを接続しておけば、電気・電子楽器の音がアンプ・スピーカーから発音されます。)  
※OUTPUTジャック⑧からは、YT-3000の電源のON、OFFにかかわらず、INPUTジャック⑦に入力した楽器音が出力されますが、ノイズの発生を防ぐため、演奏中はパワースイッチ①をOFFにしてご使用ください。  
アコースティック楽器の場合は内蔵マイクロホン⑥に楽器をできるだけ近づけます。  
※INPUTジャック⑦にプラグが接続されている時には、内蔵マイクロホン⑥は作動しません。
  2. パワースイッチ①を“AUTO”にします。
  3. ピッチスイッチ⑨を押して、標準となるAのピッチ (438~445Hz) を選択します。(“ピッチ設定の方法”項参照)
  4. 音を出すと、その音に一番近い音の音名/ピッチインジケータ⑧、オクターブインジケータ④が点灯します。(2音以上同時に起きないでください。)
  5. チューニングしたい音の音名/ピッチインジケータ⑧、オクターブインジケータ④が点灯し、メーター②の中央(0)に針がくるように楽器を調節します。正しくチューニングされた時には、チューニングガイド⑨の両方(▷、◁)が点灯します。

#### ●マニュアルチューニング：(MANL.)

- あらかじめチューニングする音を設定しておいてからチューニングするモードです。
1. オートチューニングの場合と同様に、楽器を接続または内蔵マイクロホンに近づけます。
  2. パワースイッチ①を“MANL.”にします。
  3. ピッチスイッチ⑨を押して、標準となるAのピッチ (438~445Hz) を選択します。(“ピッチ設定の方法”項参照)
  4. ノートスイッチ⑩によりチューニングしたい音を選びます。ノートスイッチ⑩を押すごとに、下図の順で音名が変わります。

→C→C#→D→D#(Eb)→E→F→F#→G→G#→A→A#(Bb)→B→

5. チューニングしたい音を出し、メーター②の中央(0)に針がくるように楽器を調節します。正しくチューニングされた時には、チューニングガイド⑨の両方(▷、◁)が点灯します。  
※マニュアルチューニングモードではオクターブの判別を行ないませんので、オクターブインジケータ④は点灯しません。また、オクターブスイッチ⑪も作動しません。

### ■基準音の発音

1. パワースイッチ①を“SOUND”にします。  
この時に現在設定されているピッチで音名/ピッチインジケータ⑧、オクターブインジケータ④が点灯し、内蔵スピーカー⑬より基準音を発音します。(電源ON時にはA=440Hzにリセットされます。)
2. ピッチスイッチ⑨を押して、標準となるAのピッチ (438~445Hz) を選択します。(“ピッチ設定の方法”項参照)
3. ノートスイッチ⑩、オクターブスイッチ⑪により発音したい音を選びます。ノートスイッチ⑩、オクターブスイッチ⑪を押すごとに、下図の順で音名、オクターブが変わります。

[音名] →C→C#→D→D#(Eb)→E→F→F#→G→G#→A→A#(Bb)→B→

[オクターブ] →-2→-1→M→+1→+2→ ※発音範囲は-2~+2です。

4. 音量切り替えスイッチ⑧により、音量を調節します。(小：●，大：⊕)  
※ノートスイッチ⑩を押し続けると音名とオクターブは自動的にアップします。  
ノートスイッチ⑩とオクターブスイッチ⑪を同時に押すとA、Mにセットされます。

### ■音名/ピッチインジケータの表示切り替え

音名表示切り替えスイッチ⑫によりD#、A#の表示をEb、Bbの表示に切り替えることができます。  
“NORMAL”：D#、A#  
“BRASS”：Eb、Bb  
管楽器等の移調楽器のチューニング時にこのスイッチを“BRASS”側にセットすると便利です。また、この切り替えはチューニング時、基準音の発音時のどちらでも有効です。

### ■ピッチ設定

標準となるピッチを設定します。各楽器のチューニングを合わせるために、ピアノの中央のラの音(A=440Hz)が標準ピッチとして用いられます。この標準ピッチは地域や時代によって多少の誤差があり、近年ではやや高めのピッチでチューニングされる事が多くなっています。

### ■ピッチ設定の方法

1. パワースイッチ①を“MANL.”、“AUTO”または“SOUND”にします。
2. ピッチスイッチ⑨を1回押すと、現在設定されている標準ピッチを示す音名/ピッチインジケータ⑧が点滅します。
3. 音名/ピッチインジケータ⑧の点滅中にピッチスイッチ⑨を押して、希望する標準ピッチを設定します。  
1回押すごとに音名/ピッチインジケータ⑧の点滅位置が1ステップ(1Hz)ずつ移動します。

→438→439→440→441→442→443→444→445→

4. ピッチスイッチ⑨を押す操作を止めた後、約2秒後に自動的にチューニングモードとなります。  
※パワースイッチ①を“OFF”にすると、設定された標準ピッチは解除されます。パワースイッチ①を“OFF”から“MANL.”、“AUTO”または“SOUND”にすると、標準ピッチは自動的に440Hzに設定されます。

### ■仕様

- 表示 : メーター、チューニングガイド、音名/ピッチインジケータ、オクターブインジケータ
- 調律測定範囲 : B 0 (30, 87Hz) ~ B 7 (3951, 1Hz)
- 基準発振音範囲 : C 2 (65, 4Hz) ~ B 6 (1975, 5Hz)
- 精度 : ±1セント
- 標準ピッチ範囲 : A = 438Hz ~ 445Hz (1Hzステップ)
- 付加機能 : バッテリーチェック機能
- 端子 : INPUTジャック、OUTPUTジャック、DC9Vジャック
- 電源 : 6F22(006P) 9V乾電池、別売ACアダプター (AC-05、AC-320)
- 外形寸法 : 161(W) × 78(D) × 37.5(H)mm
- 重量 : 225g (乾電池含む)
- 付属品 : ソフトケース、6F22 9V乾電池 × 1
- ※仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

### ■サービスについて

1. 保証期間  
本機の保証期間は、ご購入日(保証書による)より満1ヶ月(現金・クレジット・月賦等による区別はございません。また保証は国内のみ有効)と致します。
2. 保証期間中のサービス  
保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご持参頂きますと、技術者が修理・調整致します。この際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合にはサービス料金を頂く場合があります。  
また、お買い上げ店より遠方に転送される場合は、事前にお買い上げ店あるいは右記のヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点にご連絡ください。転送先におけるサービス担当者をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続き致します。
3. アフターサービス  
満1ヶ月の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引続き責任をもってサービスをさせていただきます。そのほかご不明の点などございましたら、お買い上げ店あるいは右記のヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点までお問い合わせください。

ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点	
(修理受付および修理品お預り窓口)	
北海道サービスセンター	〒004 札幌市中央区南十条西1-15-50 ヤマハセンター内 TEL(011)513-5036
仙台サービスセンター	〒983 仙台市青葉区加賀5-7 仙台卸共同配送センター3F TEL(022)236-0249
新潟サービスセンター	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバービル2F TEL(025)243-4321
東京サービスセンター	〒101 東京都千代田区神田錦町3-4 錦町ビル4F TEL(03)3255-2241
首都圏サービスセンター	〒211 川崎市中原区本町1184 TEL(044)434-3100
浜松サービスセンター	〒435 浜松市上野町911 ヤマハ浜松工場内 TEL(053)465-6711
名古屋サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪サービスセンター	〒565 吹田市新舞子1-16 ヤマハ吹田市センター内 TEL(06)877-5262
神戸サービスセンター	〒650 神戸市中央区光町2-7-3 ヤマハ神戸工場1F TEL(078)321-1195
西園サービスセンター	〒760 高松市丸亀町3-1 ヤマハ高松店内 TEL(087)322-3045
広島サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39 TEL(082)874-3787
九州サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134
[本社]	
技術営業部	〒435 浜松市上野町911 ヤマハ浜松工場内 TEL(053)465-5195
テクニカルセンター	

### ヤマハ株式会社

LM営業部  
ギター・ドラム営業課  
〒104 東京都中央区銀座7-9-18パールビル8F  
03-5568-2934

# YAMAHA

## AUTO/MANUAL CHROMATIC TUNER

# YT-3000

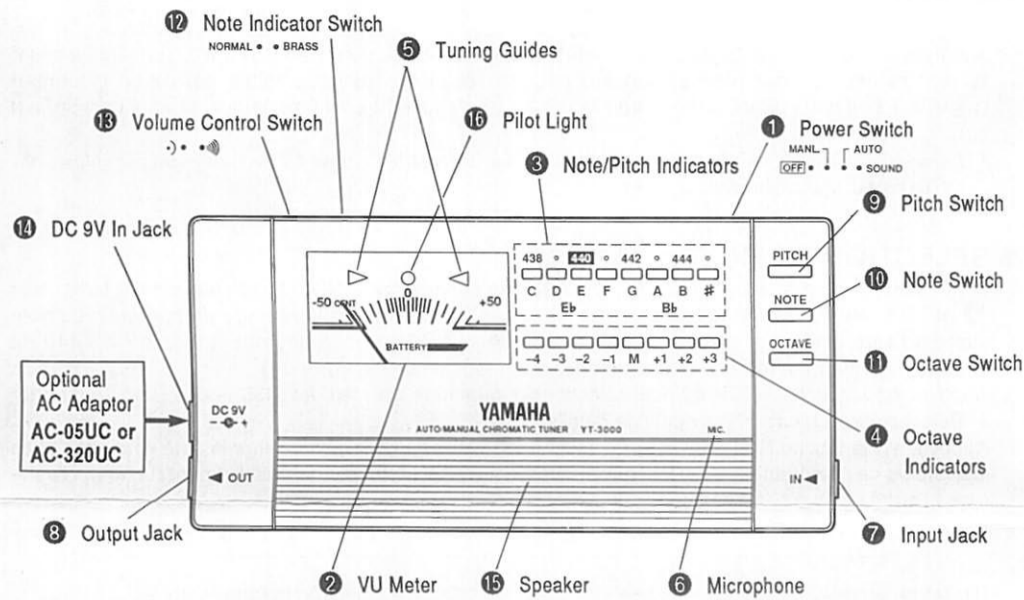
### OWNER'S MANUAL

*Thank you for purchasing the YAMAHA YT-3000 Auto/Manual Chromatic Tuner.  
Please read this manual thoroughly and keep it in a safe place for future reference.*

#### PRECAUTIONS

- ◆ To prevent damage, do not use the tuner in the following locations:
  - places where the unit will be in direct sunlight;
  - places subject to temperature and humidity extremes;
  - places that are sandy or dusty.
- ◆ To power the tuner, use only a 6F22 or 006P 9V dry cell battery or an optional YAMAHA AC-05UC or AC-320UC AC Adaptor. Other power sources may damage the device.
  - Before connecting the AC adaptor, make sure that the polarities of the plug and the jack match (- ⊕+).
- ◆ For maximum battery life, always be sure the tuner is turned OFF when not in use.
- ◆ To prevent possible damage due to leakage of battery fluid, remove the battery from the tuner if it is not to be used for an extended period of time.
- ◆ Do not subject the tuner to strong physical shock or vibration. Do not use excessive force on any of the parts.
- ◆ Never use solvents such as benzene or thinner to clean the tuner. Wipe clean with a soft, dry cloth.

#### COMPONENTS



#### SPECIFICATIONS

- Indicators** : VU Meter, Tuning Guides, Note/Pitch Indicator LEDs, Octave Indicator LEDs
- Tuning Measurement Range** : B0 (30.87 Hz) — B7 (3951.1 Hz)
- Standard Signal Range** : C2 (65.4 Hz) — B6 (1975.5 Hz)
- VU Meter Precision** : ± 1 cent
- Standard Pitch Range** : A = 438 Hz — 445 Hz (1 Hz steps)
- Added Function** : Battery Check
- Jacks** : INPUT, OUTPUT, DC 9V
- Power Source** : 9V dry cell battery (006P or 6F22) or YAMAHA AC adaptor (AC-05UC or AC-320UC)
- Dimensions (WxHxD)** : 161 x 78 x 37.5 mm (6-5/16" x 3-1/16" x 1-1/2")
- Weight** : 225 g (8 oz) with battery
- Accessories** : Soft case, 9V dry cell battery (6F22) x 1

\* Specifications and external appearance are subject to change without notice.

THIS DIGITAL APPARATUS DOES NOT EXCEED THE "CLASS B" LIMITS FOR RADIO NOISE EMISSIONS FROM DIGITAL APPARATUS SET OUT IN THE RADIO INTERFERENCE REGULATION OF THE CANADIAN DEPARTMENT OF COMMUNICATIONS.

#### FCC INFORMATION (U.S.A.)

- 1. IMPORTANT NOTICE: DO NOT MODIFY THIS UNIT!**  
This product, when installed as indicated in the instructions contained in this manual, meets FCC requirements. Modifications not expressly approved by Yamaha may void your authority, granted by the FCC, to use the product.
  - 2. IMPORTANT:** When connecting this product to accessories and/or another product use only high quality shielded cables. Cable/s supplied with this product MUST be used. Follow all installation instructions. Failure to follow instructions could void your FCC authorization to use this product in the USA.
  - 3. NOTE:** This product has been tested and found to comply with the requirements listed in FCC Regulations, Part 15 for Class "B" digital devices. Compliance with these requirements provides a reasonable level of assurance that your use of this product in a residential environment will not result in harmful interference with other electronic devices. This equipment generates/uses radio frequencies and, if not installed and used according to the instructions found in the users manual, may cause interference harmful to the operation of other electronic devices. Compliance with FCC regulations does not guarantee that interference will not occur in all installations. If this product is found to be the source of interference, which can be determined by turning the unit "OFF" and "ON", please try to eliminate the problem by using one of the following measures:  
Relocate either this product or the device that is being affected by the interference.  
Utilize power outlets that are on different branch (circuit breaker or fuse) circuits or install AC line filter/s.  
In the case of radio or TV interference, relocate/reorient the antenna. If the antenna lead-in is 300 ohm ribbon lead, change the lead-in to co-axial type cable.  
If these corrective measures do not produce satisfactory results, please contact the local retailer authorized to distribute this type of product. If you can not locate the appropriate, please contact Yamaha Corporation of America, Electronic Service Division, 6600 Orangethorpe Ave, Buena Park, CA 90620
- The above statements apply ONLY to those products distributed by Yamaha Corporations of America or its subsidiaries.

#### TUNING PROCEDURES

##### Auto Tuning (AUTO)

In AUTO mode, the tuner will automatically select the note and octave closest to the tone input for tuning. This mode is convenient for tuning during musical performances.

1. For electric instruments, connect the cord from the instrument to the INPUT jack ⑦. (At this time, the OUTPUT jack ⑧ can be connected to an amplifier system.)
  - \* If sound is input at the INPUT jack ⑦, the sound will be transmitted to the OUTPUT jack ⑧ whether or not the power switch ① is turned OFF. To ensure only the desired sounds during a musical performance, keep the power switch ① in the OFF position.
- For acoustic instruments, place the instrument as near as possible to the built-in microphone ⑥ when tuning.
  - \* The built-in microphone ⑥ cannot be used when there is a plug in the INPUT jack ⑦.
2. Turn the power switch ① to the "AUTO" position.
3. Press the pitch switch ⑨ to select the standard A pitch (438—445 Hz). Refer to the Pitch Selection section for details.
4. Generate a tone from the instrument. The appropriate note/pitch indicator ③ and octave indicator ④ will automatically light. (Take care not generate two or more tones at the same time.)
5. While the appropriate note/pitch indicator ③ and octave indicator ④ are lit, tune the instrument until the needle of the VU meter ② rests in the middle ("0" cent). (The pilot light ⑬ is helpful for aligning the needle in places with poor lighting.) Both tuning guides (▷ and ◁) ⑤ will be lit when the tuning is correct.

##### Manual Tuning (MANL.)

In MANL. mode, each note must be individually selected as needed. This mode is most commonly used to tune instruments before musical performances.

1. Similar to AUTO mode, connect the electric instrument cord to the INPUT jack ⑦. For acoustic instruments, place the instrument near the built-in microphone ⑥.
2. Turn the power switch ① to the "MANL." position.
3. If desired, press the pitch switch ⑨ to select the standard A pitch (438—445 Hz). Refer to the Pitch Selection section for details.
4. Press the note switch ⑩ to select the desired tuning note. The note/pitch indicators ③ for the tuning notes will light in sequence (as shown in the pattern below) each time the note switch ⑩ is pressed.
 

→ C → C# → D → D#(Eb) → E → F → F# → G → G# → A → A#(Bb) → B →
5. Tune the instrument until the needle of the VU meter ② rests in the middle ("0" cent). (The pilot light ⑬ is helpful for aligning the needle in places with poor lighting.) Both tuning guides (▷ and ◁) ⑤ will be lit when the tuning is correct.
  - \* In MANL. mode, there are no octave functions; the octave indicators ④ will not light, and the octave switch ⑪ is disabled.

#### STANDARD KEY SELECTION

1. Turn the power switch ① to the "SOUND" position. The note/pitch indicator ③ and the octave indicator ④ will light for the current pitch setting. The standard key will sound from the built-in speaker ⑮. (Note: The standard pitch automatically resets to A = 440 Hz whenever the power is turned on.)
2. Press the pitch switch ⑨ to select the standard A pitch (438 — 445 Hz). Refer to the Pitch Selection section for details.
3. Press the note switch ⑩ and octave switch ⑪ to select the desired key. The respective note/pitch indicators ③ and octave indicators ④ will light in sequence (as shown in the patterns below).
 

[Note] → C → C# → D → D#(Eb) → E → F → F# → G → G# → A → A#(Bb) → B →

[Octave] → -2 → -1 → M → +1 → +2 → \* Octave selection is from -2 to +2.
4. The built-in speaker ⑮ volume can be adjusted with the volume switch ⑬. (Low: ◡, High: ◢)
- \* Both the note/pitch indicator ③ and the octave indicator ④ will automatically step upward when the note switch ⑩ is continually pressed.
- \* Pushing the note switch ⑩ and the octave switch ⑪ at the same time will select standard A and set the octave to M.

#### NOTE/PITCH INDICATORS

A BRASS setting is especially convenient for tuning instruments attached to a master instrument. The note indicator switch ⑫ changes the note indication from NORMAL (D# and A#) to BRASS (Eb and Bb).  
 "NORMAL" : D#, A#  
 "BRASS" : Eb, Bb  
 \* The BRASS setting can be used for the tuning procedures and standard key selection.

#### PITCH SELECTION

Recently, it has become common to slightly raise the standard pitch when tuning musical instruments. The standard pitch also depends on the region and the era. To conform to the current standard and to harmonize with other instruments, the standard pitch must be changed from time to time.

##### Pitch Selection Method

1. Turn the power switch ① to the "MANL.", "AUTO" or "SOUND" position.
2. Press the pitch switch ⑨ once to enter pitch selection mode. A note/pitch indicator ③ will flash at one of the standard pitch settings.
3. While the note/pitch indicator ③ is flashing, press the pitch switch ⑨. The note/pitch indicators ③ will flash in sequence (as shown in the pattern below) each time the pitch switch ⑨ is pressed. Each note/pitch indicator ③ step represents a 1 Hz change in standard pitch.
 

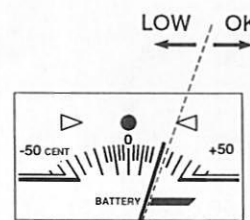
→ 438 → 439 → 440 → 441 → 442 → 443 → 444 → 445 →
4. Select the desired standard pitch. When the pitch switch ⑨ has not been pressed for about 2 seconds, the tuner will automatically return to tuning mode.
  - \* Turning OFF the power switch ① cancels the selected standard pitch. When the power switch ① is turned back on to the "MANL.", "AUTO" or "SOUND" position, the standard pitch automatically resets to A: 440 Hz.

#### BATTERY CHECK

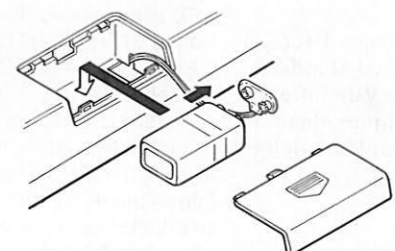
For about 2 seconds after switching the power from "OFF" to "MANL.", "AUTO" or "SOUND", the VU meter needle will indicate the charge remaining in the battery. If the needle rests to the left of the battery check bar (refer to Figure 1 below), the battery needs to be replaced. As an additional check, if the battery runs low while the tuner is in use, both tuning guide indicators ⑤ (▷, ◁) will flash indicating that the battery must be replaced. For convenience, the tuner has a DC 9V jack ⑭; please use an optional YAMAHA AC adaptor (AC-05UC or AC-320UC) wherever possible.

##### Battery Change

The battery compartment is in the rear of the tuner. Remove the old battery and replace it with a new one of the same type. Be careful to connect the battery in the correct polarity.  
 \* Always turn the power switch ① to "OFF" before changing the battery or connecting an AC adaptor.



(Figure 1)



(Figure 2)

# YAMAHA

## ACCORDEUR CHROMATIQUE AUTO/MANUEL

# YT-3000

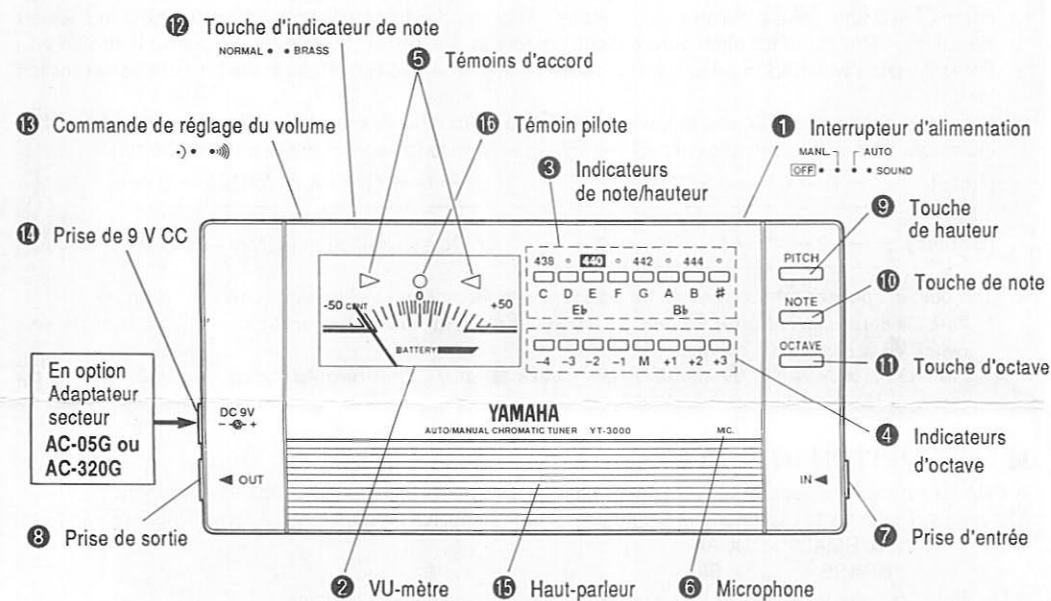
### MODE D'EMPLOI

Nous vous remercions d'avoir porté votre choix sur l'accordeur chromatique auto/manuel YAMAHA YT-3000.  
Nous vous prions de lire attentivement ce mode d'emploi et de le conserver en lieu sûr pour toute référence future.

#### ■ PRECAUTIONS

- ◆ Afin de ne pas endommager l'accordeur ne pas l'utiliser dans des endroits soumis aux conditions suivantes:
  - plein soleil;
  - humidité ou températures excessives;
  - sable ou poussière.
- ◆ Pour alimenter l'accordeur, utiliser une pile sèche 6F22 ou 006P de 9 volts ou un adaptateur secteur en option YAMAHA AC-05G ou AC-320G.
  - \* Avant de brancher, vérifier que la polarité de la fiche et celle de la prise correspondent (- ⊕ +).
- ◆ Pour prolonger au maximum la durée de vie de la pile, toujours mettre l'accordeur hors tension lorsqu'il n'est pas utilisé.
- ◆ Pour prévenir tout endommagement éventuel de l'accordeur dû à une fuite du liquide de la pile, enlever la pile lorsque l'accordeur ne doit pas être utilisé pendant une période prolongée.
- ◆ Ne pas soumettre l'accordeur à des chocs ou à des vibrations importantes. Ne jamais le manipuler avec une force excessive.
- ◆ Ne jamais utiliser de solvants, tels que de la benzine ou un diluant, pour nettoyer l'accordeur. L'essuyer avec un chiffon propre et sec.

#### ■ ORGANES



#### ■ CONTROLE DE LA PILE

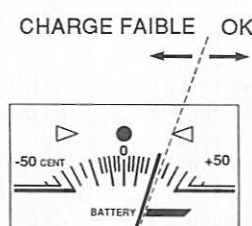
Pendant environ 2 secondes après la mise sous tension, lorsque l'interrupteur POWER 1 est mis sur "AUTO", "MANL." ou "SOUND", l'aiguille du VU-mètre indique la charge de la pile. Si l'aiguille vient se placer à gauche de la barre de contrôle de la pile (voir la Figure 1 ci-dessous), la pile doit être changée. Par mesure de sécurité, si la pile devient trop faible pendant que l'accordeur est en cours d'utilisation, les deux témoins d'accord (▷, ◁) 5 se mettent à clignoter pour indiquer que la pile doit être remplacée.

Pour des raisons de commodité, l'accordeur est pourvu d'une prise 9 V CC 14; utiliser un adaptateur secteur YAMAHA (AC-05G ou AC-320G) en option chaque fois que possible.

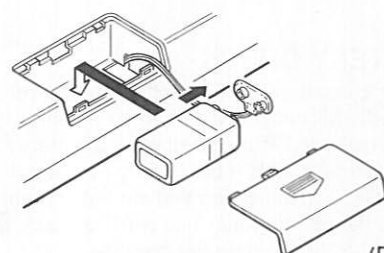
#### • Remplacement de la pile

Le logement de la pile est situé au dos de l'accordeur. Retirer la pile usée et la remplacer par une pile neuve du même type. Faire très attention de placer la pile en respectant les polarités.

\* Toujours mettre l'interrupteur POWER 1 sur la position "OFF" avant de remplacer la pile ou de connecter un adaptateur secteur.



(Figure 1)



(Figure 2)

#### ■ FICHE TECHNIQUE

Indicateurs	: VU-mètre, témoin d'accord, LED d'indicateurs de note/hauteur, LED d'indicateurs d'octave
Plage de mesure d'accord	: B0 (30,87 Hz) — B7 (3951,1 Hz)
Plage de signal standard	: C2 (65,4 Hz) — B6 (1975,5 Hz)
Précision du VU-mètre	: ± 1 centième
Plage de hauteur standard	: A — 438 Hz à 445 Hz (pas de 1 Hz)
Fonction supplémentaire	: Contrôle de la pile
Prises	: INPUT, OUTPUT, DC 9V
Alimentation	: Pile sèche de 9V (006P ou 6F22) ou adaptateur secteur YAMAHA (AC-05G ou AC-320G)
Dimensions (L x H x P)	: 161 x 78 x 37,5 mm
Poids	: 225 g avec pile
Accessoires	: Etui souple, Pile sèche de 9 V (6F22) x 1

\* Les spécifications et l'aspect externe peuvent être modifiés sans aucun avis.

#### ■ MARCHÉ A SUIVRE

##### • Accord automatique (AUTO)

En mode AUTO, l'accordeur sélectionne automatiquement la note et l'octave les plus proches de la tonalité d'entrée pour réaliser l'accord. Ceci est particulièrement commode pour accorder pendant une représentation.

1. Dans le cas d'un instrument électrique, brancher le cordon de l'instrument à la prise INPUT 7. (La prise OUTPUT 8 peut alors être connectée à un amplificateur.)

\* Le son appliqué à la prise INPUT 7 sera transmis à la prise OUTPUT 8 même si l'interrupteur d'alimentation POWER 1 est sur la position "OFF". Pour n'avoir que le son désiré pendant une représentation, laisser l'interrupteur d'alimentation POWER 1 à la position "OFF".

Dans le cas d'un instrument acoustique, placer l'instrument le plus près possible du micro intégré 6 pour réaliser l'accord.

\* Le micro intégré 6 ne peut pas être utilisé lorsque la prise INPUT 7 est utilisée.

2. Mettre l'interrupteur d'alimentation POWER 1 à la position "AUTO".

3. Appuyer sur la touche PITCH 9 pour sélectionner la hauteur standard A4 (438 — 445 Hz). Se reporter à "Sélection de la hauteur" pour plus de détails.

4. Produire la tonalité sur l'instrument. L'indicateur de note/hauteur 3 et l'indicateur d'octave 4 appropriés s'allument automatiquement. (Faire attention de ne pas produire plus d'une tonalité en même temps.)

5. Pendant que l'indicateur de note/hauteur 3 et l'indicateur d'octave 4 appropriés sont allumés, accorder l'instrument jusqu'à ce que l'aiguille du VU-mètre 2 s'immobilise au milieu ("0 cent"). (Le témoin pilote 16 est commode pour réaliser l'accord lorsque l'éclairage est trop faible pour bien distinguer l'aiguille.) Les deux témoins d'accord (▷ et ◁) 5 s'allument en même temps lorsque l'accord est bon.

##### • Accord manuel (MANL.)

En mode MANL., chaque note doit être sélectionnée individuellement chaque fois que nécessaire. Cette méthode est la plus couramment utilisée pour accorder un instrument avant une représentation.

1. Comme dans le cas du mode AUTO, connecter le cordon de l'instrument électrique à la prise INPUT 7. Dans le cas d'un instrument acoustique, placer l'instrument le plus près possible du micro intégré 6 pour réaliser l'accord.

2. Mettre l'interrupteur d'alimentation POWER 1 à la position "MANL.".

3. Si besoin est, appuyer sur la touche PITCH 9 pour sélectionner la hauteur standard A4 (438 — 445 Hz). Se reporter à "Sélection de la hauteur" pour plus de détails.

4. Appuyer sur la touche NOTE 10 pour sélectionner la note d'accord souhaitée. Les indicateurs de note/hauteur 3 des notes d'accord s'allument l'un après l'autre (dans l'ordre indiqué ci-après) à chaque pression de la touche NOTE.

→ C → C# → D → D#(Eb) → E → F → F# → G → G# → A → A#(Bb) → B →

5. Accorder jusqu'à ce que l'aiguille du VU-mètre 2 s'immobilise au milieu ("0 cent"). (Le témoin pilote 16 est commode pour réaliser l'accord lorsque l'éclairage est trop faible pour bien distinguer l'aiguille.) Les deux témoins d'accord (▷ et ◁) 5 s'allument en même temps lorsque l'accord est bon.

\* En mode MANL., il n'y a pas de fonction d'octave; les indicateurs d'octave 4 ne s'allument pas et la touche OCTAVE 11 n'a aucune fonction.

#### ■ SELECTION DE NOTE STANDARD

1. Mettre l'interrupteur d'alimentation POWER 1 à la position "SOUND". L'indicateur de note/hauteur 3 et l'indicateur d'octave 4 appropriés s'allument pour indiquer le réglage de hauteur. La note standard sera émise par le haut-parleur intégré 15. (Remarque: La hauteur standard A4 = 440 Hz est automatiquement rétablie à chaque mise sous tension de l'accordeur.)

2. Appuyer sur la touche PITCH 9 pour sélectionner la hauteur standard A4 (438 — 445 Hz). Se reporter à "Sélection de la hauteur" pour plus de détails.

3. Appuyer sur la touche NOTE 10 et sur la touche OCTAVE 11 pour sélectionner la note souhaitée. Les indicateurs de note/hauteur 3 et les indicateurs d'octave 4 correspondants s'allument l'un après l'autre (dans l'ordre indiqué ci-après).

[Note] → C → C# → D → D#(Eb) → E → F → F# → G → G# → A → A#(Bb) → B →

[Octave] → -2 → -1 → M → +1 → +2 → \* Octave selection is from -2 to +2.

4. Le volume du haut-parleur intégré 15 peut être réglé à l'aide de la commande de réglage du volume 13 (Bas: •, Haut: »)

\* Les indicateurs de note/hauteur 3 et les indicateurs d'octave 4 s'allument automatiquement l'un après l'autre lorsque la touche NOTE 10 est maintenue enfoncée.

\* Le fait d'appuyer simultanément sur la touche NOTE 10 et sur la touche OCTAVE 11 sélectionne la hauteur standard A et règle l'octave à M.

#### ■ INDICATEURS DE NOTE/HAUTEUR

Le réglage BRASS est particulièrement commode pour accorder des instruments connectés à un instrument principal.

La touche d'indicateur de note 12 permet de changer l'indication de note du mode NORMAL (D# et A#) au mode BRASS (Eb et Bb).

"NORMAL" : D#, A#  
"BRASS" : Eb, Bb

\* Le réglage BRASS peut être utilisé pour accorder et pour la sélection de note standard.

#### ■ SELECTION DE LA HAUTEUR

Il est devenu habituel d'élever légèrement la hauteur standard pour accorder un instrument musical. La hauteur standard varie également selon les pays et les époques. Pour être conforme au goût du jour et s'harmoniser avec d'autres instruments, la hauteur standard doit être modifiée de temps en temps.

##### • Mode de sélection de la hauteur

1. Mettre l'interrupteur d'alimentation POWER 1 sur la position "AUTO", "MANL." ou "SOUND".

2. Appuyer une fois sur la touche PITCH 9 pour activer le mode de sélection de hauteur. Un des indicateurs de note/hauteur 3 correspondant à une hauteur standard clignote.

3. Pendant que l'indicateur de note/hauteur 3 clignote, appuyer sur la touche PITCH 9. Les indicateurs de note/hauteur 3 clignotent l'un après l'autre (dans l'ordre indiqué ci-après) à chaque pression de la touche PITCH. Chaque indicateur de note/hauteur 3 représente une modification de la hauteur standard de 1 Hz.

→ 438 → 439 → 440 → 441 → 442 → 443 → 444 → 445 →

4. Sélectionner la hauteur standard souhaitée. Si la touche PITCH 9 n'est pas sollicitée dans les 2 secondes environ, l'accordeur revient automatiquement au mode d'accord.

\* Le fait de mettre l'interrupteur POWER 1 sur la position "OFF" annule la hauteur standard sélectionnée. Lorsque l'interrupteur POWER 1 est remis sur "AUTO", "MANL." ou "SOUND", la hauteur standard A4: 440 Hz est automatiquement rétablie.

LE PRESENT APPAREIL NUMERIQUE N'EMET PAS DE BRUITS RADIOELECTRIQUES DEPASSANT LES LIMITES APPLICABLES AUX APPAREILS NUMERIQUE DE LA "CLASSE B" PRESCRITES DANS LE REGLEMENT SUR LE BROUILLAGE RADIOELECTRIQUE EDICTE PAR LE MINISTERE DES COMMUNICATIONS DU CANADA.

# YAMAHA

## CHROMATISCHES STIMMGERÄT

# YT-3000

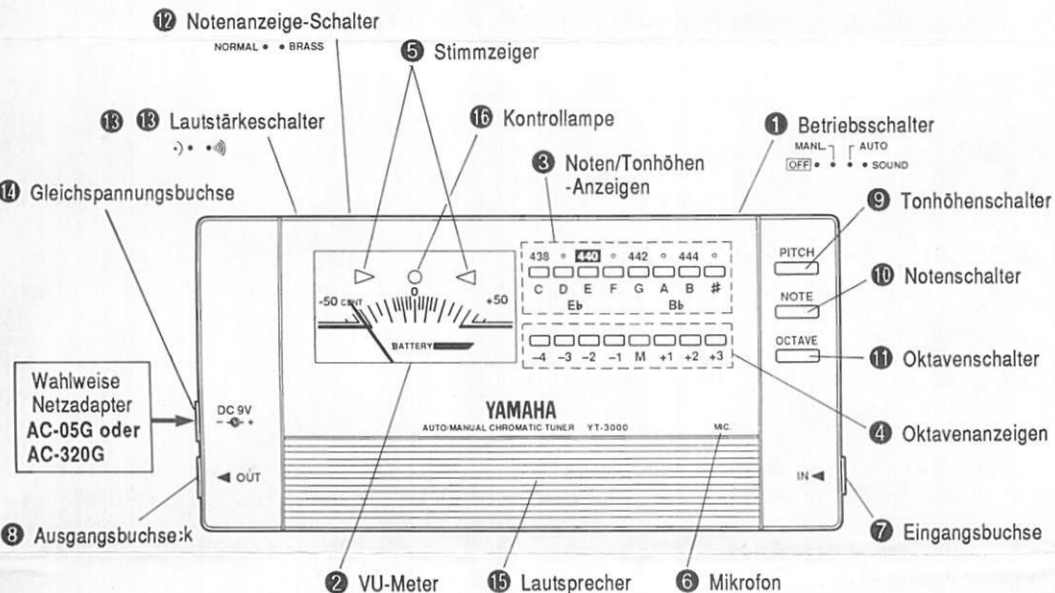
### BEDIENUNGSANLEITUNG

Vielen Dank für den Kauf des chromatischen Stimmgeräts YAMAHA YT-3000 für automatischen oder manuellen Betrieb.  
Bitte lesen Sie sich diese Anleitung vor Gebrauch durch und bewahren Sie sie dann zur späteren Bezugnahme an einem sicheren Ort auf.

#### VORSICHTSMASSNAHMEN

- Das Gerät vor den nachfolgenden Einflüssen schützen, um Schäden zu verhindern:
  - Direkte Sonneneinstrahlung
  - Extreme Temperaturen oder Feuchtigkeit
  - Übermäßiger Staub.
- Zum Betrieb des YT-3000 nur eine 9 V Batterie der Kennung 6F22 oder 006P bzw. den getrennt erhältlichen Yamaha Netzadapter AC-05G oder AC-320G verwenden. Andere Stromquellen können zu Schäden führen.
- Vor dem Anschluß des Netzadapters sicherstellen, daß die Polarität des Steckers mit der der Buchse übereinstimmt (- ⊕ +).
- Das Gerät nach Gebrauch stets ausschalten, um die Batterie zu schonen.
- Vor längerem Nichtgebrauch die Batterie entfernen, um Schäden durch womöglich lecke Batterien zu verhindern.
- Vor Stoß und Schlag schützen. Keinesfalls mit Gewalt handhaben.
- Zum Reinigen keinesfalls Benzin oder Verdünner verwenden. Mit einem trockenen, sauberen Tuch abwischen.

#### BAUTEILE



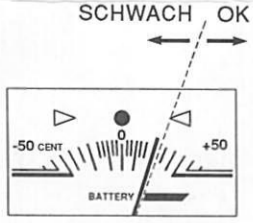
#### BATTERIEPRÜFUNG

Nach dem Einschalten des Stimmgeräts (MANL., AUTO bzw. SOUND) zeigt das VU-Meter die Restspannung der Batterie etwa 2 Sekunden lang an. Wenn der Zeiger dabei links vom BATTERY-Balken steht (siehe Abb. 1 weiter unten), muß die Batterie durch eine frische ersetzt werden. Als zusätzliche Warnanzeige beginnen beide Stimmzeiger (▷, ◁) zu blinken, wenn die Batteriespannung beim Stimmen unter den Grenzwert sinkt. Das Stimmgerät ist außerdem mit einer Gleichspannungsbuchse (DC 9V) ausgestattet, die batterieunabhängigen Netzbetrieb über einen YAMAHA Netzadapter (AC-05G bzw. AC-320G) ermöglicht.

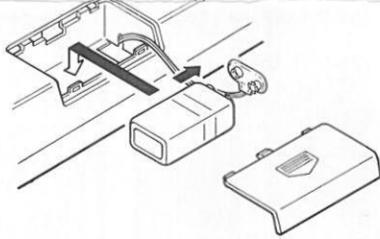
#### Batteriewechsel

Das Batteriefach befindet sich an der Geräterückseite. Die alte Batterie abklemmen und durch eine frische desselben Typs ersetzen. Darauf achten, daß die neue Batterie polrichtig angeschlossen wird.

\* Vor dem Auswechseln der Batterie bzw. Anschließen des Netzadapters den Betriebsschalter ① unbedingt auf OFF stellen.



(Abb. 1)



(Abb. 2)

#### TECHNISCHE DATEN

Anzeigen	: VU-Meter, Stimmzeiger, Noten/Tonhöhen-Anzeigen, Oktavenanzeigen
Stimmebereich	: B0 (30,87 Hz) bis B7 (3951,1 Hz)
Standardsignalebereich	: C2 (65,4 Hz) bis B6 (1975,5 Hz)
VU-Meterpräzision	: ± 1 Cent
Bezugstonhöhenbereich	: A = 438 Hz bis 445 Hz (1 Hz Schritte)
Zusatzfunktion	: Batterieprüfung
Buchsen	: INPUT, OUTPUT, DC 9V
Stromversorgung	: 9V Trockenzelle (006P oder 6F22) oder YAMAHA Netzadapter (AC-05G oder AC-320G)
Abmessungen (WxHxD)	: 161 x 78 x 37,5 mm
Gewicht	: 225 g mit Batterie
Zubehör	: Etui, 9V Batterie (6F22) x 1

\* Änderungen an Daten und Design vorbehalten.

Bescheinigung des Importeurs  
Hiermit wird bescheinigt, daß der / die / das  
**AUTO/MANUAL CHROMATIC TUNER Typ : YT-3000**  
(Gerät, Typ, Bezeichnung)  
in Übereinstimmung mit den Bestimmungen der  
**VERFÜGUNG 1046/84**  
(Amtsblattverfügung)  
funktionstüchtig ist.  
Der Deutschen Bundespost wurde das Inverkehrbringen dieses Gerätes angezeigt und die Berechtigung zur Überprüfung der Serie auf Einhaltung der Bestimmungen eingeräumt.  
**YAMAHA Europa GmbH**  
Name des Importeurs

#### STIMMVORGANG

##### Automatisches Stimmen (AUTO)

In der AUTO-Betriebsart wählt das Stimmgerät automatisch die dem Eingabeton am nächsten liegende Note und Oktave. Dies ist besonders praktisch zum Stimmen bei Live-Konzerten.

- Zum Stimmen elektrischer Instrumente deren Kabel an die INPUT-Buchse ⑦ anschließen. (Die OUTPUT-Buchse ⑧ kann dabei mit einem Verstärker verbunden sein.)  
\* Ein über die INPUT-Buchse ⑦ eingegebenes Tonsignal liegt auch dann an der OUTPUT-Buchse ⑧ an, wenn der Betriebsschalter ① auf OFF gestellt ist. Um Einstreuung unerwünschter Tonsignale zu vermeiden, sollte der Betriebsschalter ① bei Nichtgebrauch des Stimmgeräts auf OFF gestellt sein.  
Akustische Instrumente zum Stimmen so dicht wie möglich an das eingebaute Mikrofon ⑥ halten.  
\* Bei beschalteter INPUT-Buchse ⑦ funktioniert das Mikrofon ⑥ nicht.
- Den Betriebsschalter ① auf AUTO stellen.
- Mit dem PITCH-Schalter ⑨ die Tonhöhe für Stimmtton A (438 bis 445 Hz) wählen. Einzelheiten siehe Abschnitt WAHL DER STIMMTONHÖHE.
- Mit dem Instrument einen Ton spielen. Die entsprechende Noten/Tonhöhen-Anzeige ③ und Oktavenanzeige ④ leuchten dabei automatisch auf. (Es darf nur ein Ton erzeugt werden.)
- Während die richtige Noten/Tonhöhen-Anzeige ③ und Oktavenanzeige ④ leuchten, das Instrument stimmen, bis der Zeiger des VU-Meters ② in der Mitte (0 Cent) steht. (Die Kontrolllampe ⑩ erleichtert die Ausrichtung des Zeigers an schlecht beleuchteten Orten.) Bei korrekter Stimmung leuchten beide Stimmzeiger (▷ und ◁) ⑤.

##### Manuelles Stimmen (MANL.)

In der MANL.-Betriebsart müssen die Noten zum Stimmen einzeln gewählt werden. Diese Betriebsart eignet sich zum Stimmen der Instrumente vor Konzerten.

- Elektrische Instrumente werden wie bei der AUTO-Betriebsart an die INPUT-Buchse ⑦ angeschlossen. Akustische Instrumente sollten möglichst nahe am Mikrofon ⑥ positioniert sein.
- Den Betriebsschalter ① auf MANL. stellen.
- Falls gewünscht, den PITCH-Schalter ⑨ drücken, um die Tonhöhe für Stimmtton A (438 bis 445 Hz) zu wählen. Einzelheiten siehe Abschnitt WAHL DER BEZUGSTONHÖHE.
- Mit dem NOTE-Schalter ⑩ die zu stimmende Note wählen. Bei jedem Druck auf den NOTE-Schalter ⑩ leuchtet gemäß dem folgenden Schema die jeweils nächste Noten/Tonhöhen-Anzeige ③ auf:  
[→ C → C# → D → D#(Eb) → E → F → F# → G → G# → A → A#(Bb) → B → ]
- Das Instrument stimmen, bis der Zeiger des VU-Meters ② in der Mitte (0 Cent) steht. (Die Kontrolllampe ⑩ erleichtert die Ausrichtung des Zeigers an schlecht beleuchteten Orten.) Bei korrekter Stimmung leuchten beide Stimmzeiger (▷ und ◁) ⑤.  
\* In der MANL.-Betriebsart arbeitet die Oktaven-Funktion nicht, so daß die Oktavenanzeige ④ nicht leuchtet und der Oktavenschalter ⑪ funktionslos ist.

#### WAHL DES BEZUGSTONS

- Den Betriebsschalter ① auf SOUND stellen. Die leuchtende Noten/Tonhöhen-Anzeige ③ und Oktavenanzeige ④ zeigen die aktuelle Tonhöhe an. Der zugehörige Bezugston wird vom eingebauten Lautsprecher ⑮ wiedergegeben. (Hinweis: Die Stimmttonhöhe wird beim Einschalten des Stimmgeräts automatisch auf A = 440 Hz (Normstimmtton) zurückgesetzt.)
- Die Tonhöhe für Stimmtton A (438 bis 445 Hz) mit dem PITCH-Schalter ⑨ einstellen. Einzelheiten siehe WAHL DER STIMMTONHÖHE.
- Den gewünschten Ton mit dem NOTE-Schalter ⑩ und dem OCTAVE-Schalter ⑪ wählen. Bei jeder Schalterbetätigung leuchtet wie folgt die jeweils nächste Noten/Tonhöhen-Anzeige ③ bzw. Oktavenanzeige ④:  
[Note/Tonhöhe] [→ C → C# → D → D#(Eb) → E → F → F# → G → G# → A → A#(Bb) → B → ]  
[Oktave] [→ -2 → -1 → M → +1 → +2 → ] \* Oktavenbereich: -2 bis +2
- Die Lautstärke des eingebauten Lautsprechers ⑮ ist mit dem Lautstärkeschalter ⑬ einstellbar. (◡) = niedrig; ◩) = hoch  
\* Wenn der NOTE-Schalter ⑩ gedrückt gehalten wird, leuchten die Noten/Tonhöhen-Anzeigen ③ der Reihe nach auf, und nach jedem Durchlauf die jeweils nächste Oktavenanzeige ④.  
\* Gleichzeitiges Drücken des PITCH-Schalters ⑨ und des OCTAVE-Schalters ⑪ bewirkt Rückstellung auf Normstimmtton A und Oktave M.

#### NOTEN/TONHÖHEN-ANZEIGEN

Die BRASS-Einstellung (Blechbläser) ist insbesondere beim Stimmen von Instrumenten von Vorteil, die an einem Master-Instrument angeschlossen sind. Mit dem Notenanzeige-Schalter ⑫ kann zwischen NORMAL (D#, A#) und BRASS (Eb, Bb) umgeschaltet werden.

NORMAL	: D#, A#
BRASS	: Eb, Bb

\* Die BRASS-Einstellung kann zum Stimmen und zum Wählen des Bezugstons verwendet werden.

#### WAHL DER BEZUGSTONHÖHE

In der modernen Musik wurde die zum Stimmen verwendete Tonhöhe nach und nach leicht angehoben. Die Tonhöhe des Stimmtons hängt außerdem vom Ort und der Epoche des musikalischen Geschehens ab. Für normgerechtes Stimmen bzw. Anpassen des eigenen Instruments an andere ist daher in vielen Fällen eine Änderung der Stimmttonhöhe unerlässlich.

##### Einstellung der Stimmttonhöhe

- Den Betriebsschalter ① auf MANL, AUTO oder SOUND stellen.
- Den PITCH-Schalter ⑨ einmal drücken, um auf Tonhöhen-Einstellbetriebsart umzuschalten. Die blinkende Noten/Tonhöhen-Anzeige ③ zeigt die aktuelle Stimmttonhöhe an.
- Während die Noten/Tonhöhen-Anzeige ③ blinkt, den PITCH-Schalter ⑨ erneut drücken. Bei jeder Schalterbetätigung wird gemäß dem unteren Schema zur jeweils nächsten Tonhöhe gewechselt, wobei die jeweils zugehörige Noten/Tonhöhen-Anzeige ③ zur Bestätigung zu blinken beginnt. Bei jeder Weiterschaltung der Noten/Tonhöhen-Anzeigen ③ wird die Stimmttonhöhe um 1 Hz angehoben.  
[→ 438 → 439 → 440 → 441 → 442 → 443 → 444 → 445 → ]
- Die gewünschte Stimmttonhöhe wählen. Wenn der PITCH-Schalter ⑨ etwa 2 Sekunden lang nicht betätigt wird, schaltet das Gerät automatisch auf Stimmbetrieb um.  
\* Wenn der Betriebsschalter ① auf OFF gestellt wird, geht die eingestellte Stimmttonhöhe verloren. Beim erneuten Einschalten des Stimmgeräts (MANL., AUTO oder SOUND) wird die Tonhöhe des Normstimmtons A (440 Hz) vorgegeben.

#### 無償修理規定

- 正常な使用状態 (取扱説明書、本体貼り付けラベルなどの注意書に従った使用状態) で故障した場合には、お買上げの販売店が無料修理を致します。
- 保証期間内に故障して無料修理をお受けになる場合は、お買上げの販売店に商品と本書をご持参のうえご依頼ください。
- ご贈答品、ご転居後の修理についてお買上げ販売店にご依頼できない場合には、最寄りのヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点にお問い合わせください。
- 保証期間内でも次の場合は有料となります。  
(1) 本書のご提示がない場合。  
(2) 本書にお買上げの年月日、お客様、お買上げの販売店の記入がない場合、及び本書の字句を書き替えられた場合。  
(3) 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障及び損傷。  
(4) お買上げ後の移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。  
(5) 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧などによる故障及び損傷。  
(6) 消耗部品の交換。  
(7) お客様のご要望により出張修理を行なう場合の出張料金。
- この保証書は日本国内においてのみ有効です。  
This warranty is valid only in Japan.
- この保証書は再発行致しませんので大切に保管してください。

\* この保証書は本書に示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買上げの販売店、ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点にお問い合わせください。